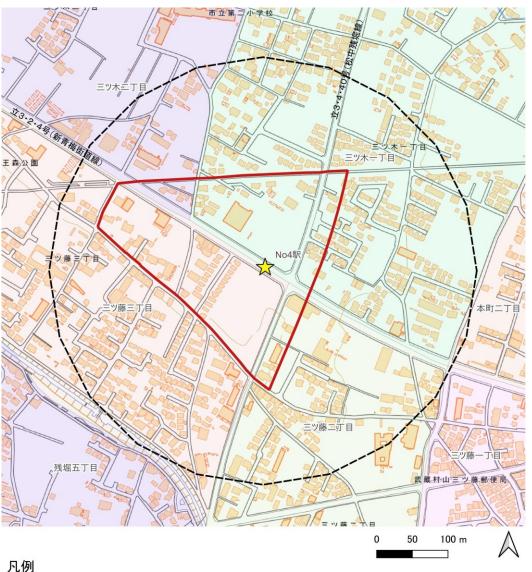
No.4駅周辺の 現 況

資料4

第1回 No.4駅周辺まちづくり協議会

1. 概況

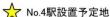
1)位置



- ➤ 三ツ木交差点西側に No.4駅整備予定
- 立地適正化計画において 都市機能誘導区域を 指定
- ✓都市機能誘導区域とは
- ■医療、福祉、商業等の 都市機能を都市の拠点に 誘導・集約することで、 各種サービスの効率的な 提供を図るための区域

■ 都市機能誘導区域(No.4駅)

参考:駅から300m



2) 資源

- > 自転車道
- ➤ 桜並木
- ▶ 残堀川
- ▶ 山王森公園 等







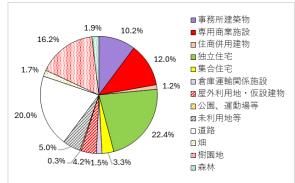
出典:多摩都市モノレール沿線まちづくり方針

2. 土地•建物

1) 土地利用①

【都市機能誘導区域(No.4駅)】

- > 宅地の中に農地等が点在
- ▶ 戸建住宅中心
- ▶ 新青梅街道沿いでは 事務所・商業施設が立地し、 用途が混在傾向
- 都市機能誘導区域内に公共施設はない



土地利用割合

出典:令和4年度土地利用現況調査(東京都)

補足:数値は四捨五入の処理をしているため、表記された個々の数値の合計値が、

表記された合計値と合わない場合がある。

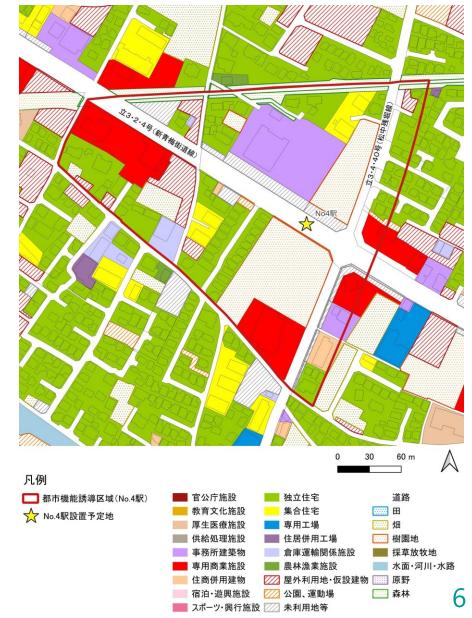
※1: 官公庁施設、教育文化施設、厚生医療施設、供給処理施設の合計

※2:専用工場、住居併用工場、倉庫運輸関係施設の合計

※3:その他には原野を含む

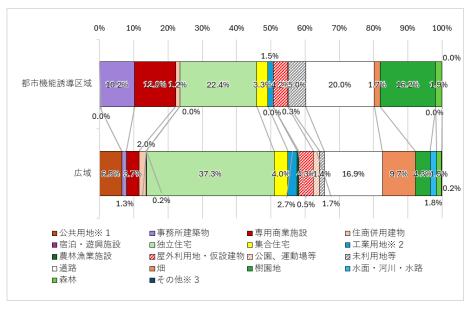
土地利用現況

出典:令和4年度土地利用現況調查(東京都)



1)土地利用②【広域】

- ➤ 都市機能誘導区域と比べて、
 - ✓ 独立住宅の割合が高い
 - ✓ 事務所・商業、樹園地の 割合が低い



No.4駅周辺町丁目の土地利用割合

出典:令和4年度土地利用現況調查(東京都)

補足:数値は四捨五入の処理をしているため、表記された個々の数値の合計値が、表記された合計値と合わない場合がある。

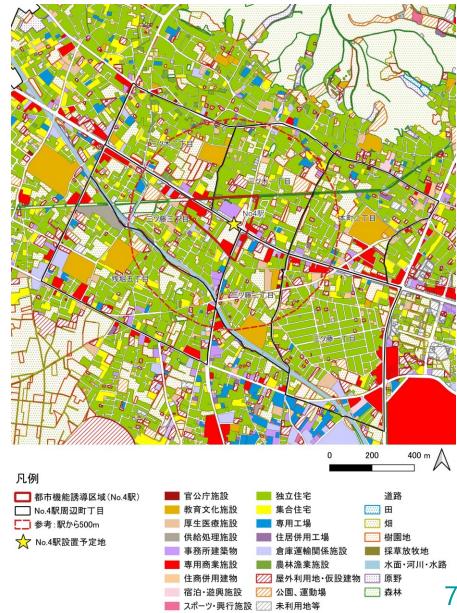
※1: 官公庁施設、教育文化施設、厚生医療施設、供給処理施設の合計

※2:専用工場、住居併用工場、倉庫運輸関係施設の合計

※3:その他には原野を含む

土地利用現況

出典:令和4年度土地利用現況調查(東京都)



2)建物の面積1

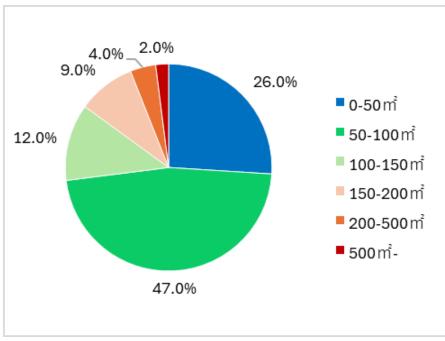
【都市機能誘導区域(No.4駅)】

都市機能誘導区域(No.4駅)

☆ No.4駅設置予定地

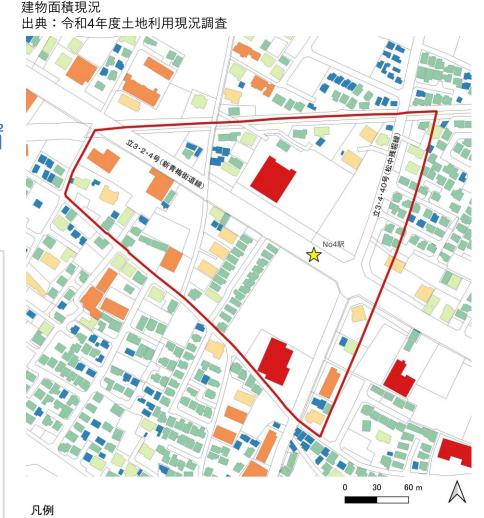
▶ 小規模な建物が多い

✓ 都市誘導区域内では...1棟あたりの平均建物面積: 96.5㎡



建物面積別割合

出典:令和4年度土地利用現況調査(東京都)

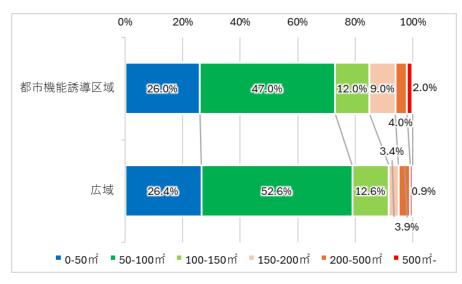


150 - 200m²

500m² -

2)建物の面積② 【広域】

- ➤ 都市機能誘導区域と同様の傾向
- ▶ ただし、規模の小さい建物の 割合がより高い



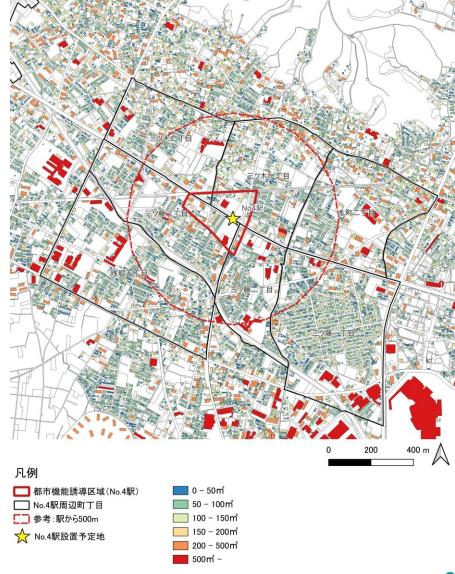
	1棟当たりの面積	
都市機能誘導区域	96.5㎡/棟	
広域	87.0㎡/棟	

No.4駅周辺町丁目の建物面積別割合

出典:令和4年度土地利用現況調査(東京都)

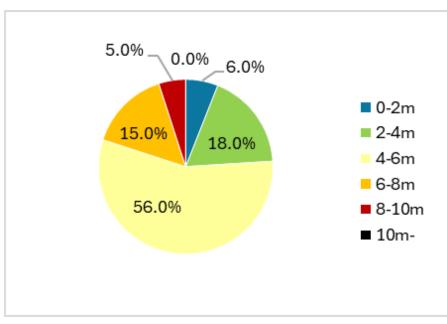
建物面積現況





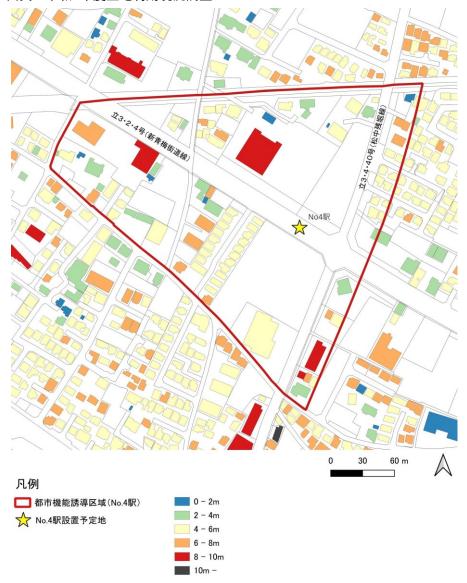
3)建物の高さ① 【都市機能誘導区域(No.4駅)】

▶ 8 m以下(2階以下)の 建物が大半



建物高さ現況

出典:令和4年度土地利用現況調査

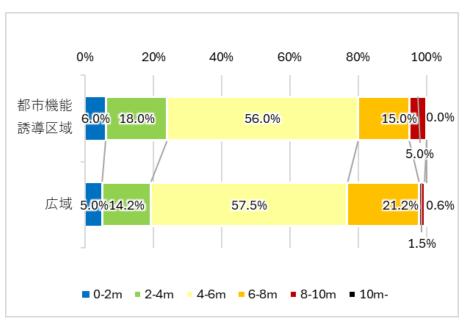


建物高さ別割合

出典:令和4年度土地利用現況調查(東京都)

3)建物の高さ② [広域]

- ➤ 都市機能誘導区域と同様の傾向
- ただし、4 m以下の建物や8 m以上の建物が少ない

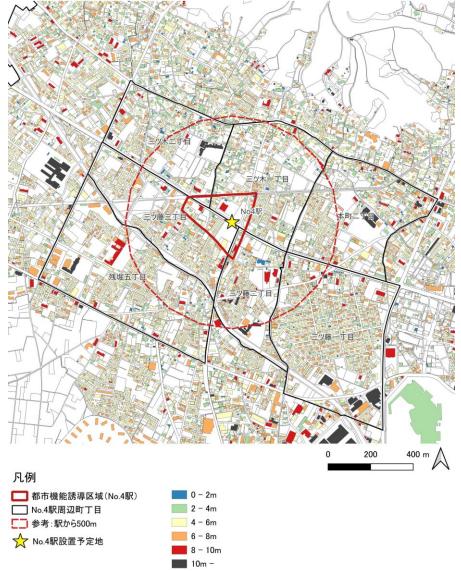


No.4駅周辺町丁目の建物高さ別割合

出典:令和4年度土地利用現況調査(東京都)

建物高さ現況

出典:令和4年度土地利用現況調査



3. 道路·交通

1) 道路ネットワーク(1)

【都市機能誘導区域(No.4駅)】

- 新青梅街道と松中残堀線が 骨格道路
- ▶ 地区北側と残堀川沿いに 自転車道が通っている (右図緑線)

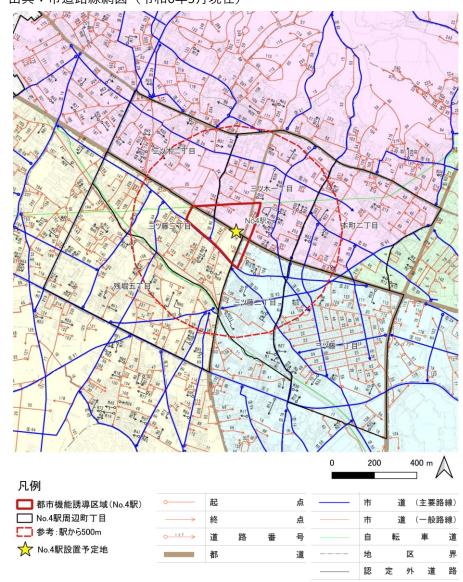
道路網図(武蔵村山市道の概要を表した参考図) 出典:市道路線網図(令和6年3月現在)



1) 道路ネットワーク②

【広域】

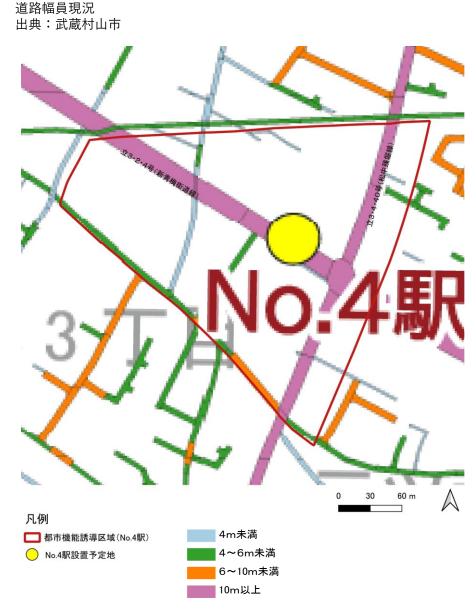
道路網図(武蔵村山市道の概要を表した参考図) 出典:市道路線網図(令和6年3月現在)



2) 道路幅員①

【都市機能誘導区域(No.4駅)】

- ➤ 新青梅街道、松中残堀線は 幅員が10m以上確保されている
- ▶ その他の道路は、幅員 6 m程度、5 m程度、4 m未満の道路が混在している



2) 道路幅員② 【広域】

- ➤ 骨格道路では、概ね10m以上の 幅員が確保されている
- ▶ その他は、
 幅員 6 m未満の道路が多い



3) 公共交通①

【都市機能誘導区域(No.4駅)】

No.4駅の近くには、三ツ木交差点の北側に三ツ木交差点のバス停がある

公共交通現況図(R7.3時点) 出典:武蔵村山市 ツ木地区会館 村山第二小 三ツ木交差点 五中南 八小入口 凡例 ■ 都市機能誘導区域(No.4駅) No.4駅設置予定地

> ◆ 乗合タクシー(むらタク)乗り場 乗合タクシー(むらタク)エリア

3) 公共交通 2

【広域】

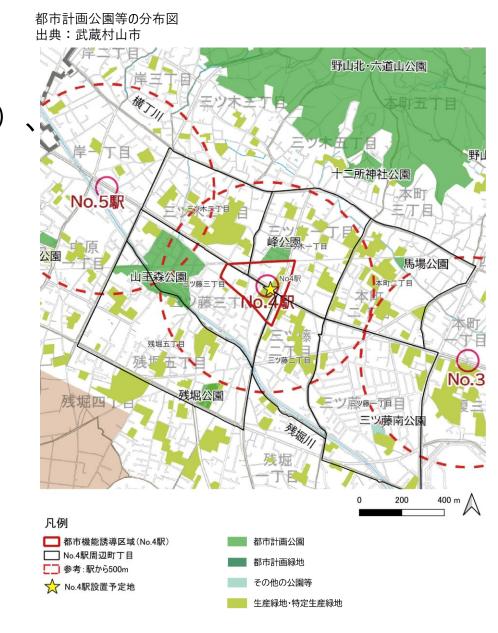
- 立川駅、昭島駅、箱根ケ崎駅 行きの路線バスが運行しているが、 本数は多くない
- ▶ 市内循環バス (MMシャトル) を 運行していない市南西部では、 乗り合いタクシー(むらタク) を 運行



4. 公園·防災

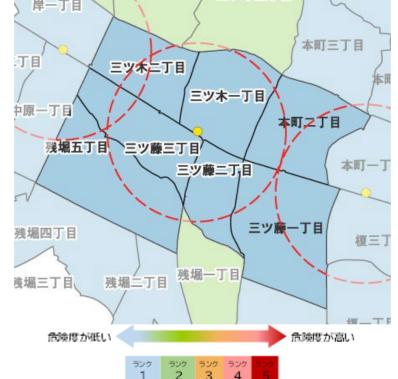
1) 公園

- ▶ 都市計画公園は、山王森公園(一部開園済み)峰公園(未整備)が近い
- ▶ 市街地の貴重な緑である 生産緑地が点在している



2) 災害リスク

- ▶ 残堀川周辺に氾濫区域が広がる
- ▶ 都市機能誘導区域内は 洪水浸水想定区域外となっている
- ➤ 地震の危険度は比較的低い

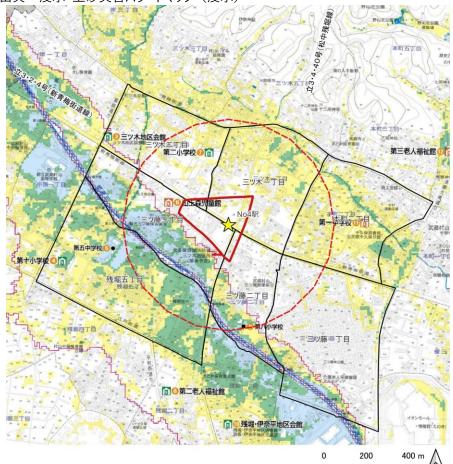


地震に関する総合危険度

出典:地震に関する地域危険度測定調査(第9回)(令和4年:東京都)

洪水浸水想定区域

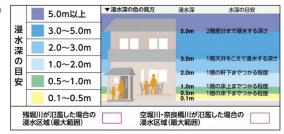
出典:浸水・土砂災害ハザードマップ(浸水)



凡例

■ 都市機能誘導区域(No.4駅)□ No.4駅周辺町丁目□ 参考:駅から500m

☆ No.4駅設置予定地



5. 都市計画(用途地域等)

1) 用途地域(都市機能誘導区域)

➤ No.4駅周辺では、

A:新青梅街道沿い

B:松中残堀線沿い(A除く)

C:その他住宅街

で3種類の用途地域が指定

	Α	В	С	
用途地域	準 住居 地域	第一種 住居 地域	第一種 <mark>低層</mark> 住居 専用地域	
建蔽率	60%		40%	
容積率	200%		80%	
高さの限度	_		10m	
高度地区	第2種		第1種	
防火地域等	準防火地域		-	



2) 用途地域とは…

- ▶ 市街地の大枠としての土地利用を定めるため、建築物の用途や建築物の 形態制限(容積率、建蔽率、高さ等)を都市計画で決定
- ▶ 当地区では以下の3種が指定

✓ 第一種低層住居専用地域

⇒ 低層住居のための地域で、 小規模なお店や事務所を兼ねた住宅や、 小中学校などが建てられます。

✓ 第一種住居地域

⇒ **住居の環境**を守るための地域で、3000㎡まで の店舗、事務所、ホテルなどは建てられます。

✓ 準住居地域

- ⇒ 道路の沿道において、 自動車関連施設などの立地と、これと調和した住居の環境を保護するための地域です。
- ▶ 地域の目指すべき土地利用の方向性 を考えて、用途地域を設定



用途地域一覧

出典:国土交通省資料 (https://www.mlit.go.jp/common/000234474.pdf)

3)建蔽率、容積率とは…

▶ 建蔽率 (けんぺいりつ) とは、 敷地面積に対する建築面積の割合 整範積

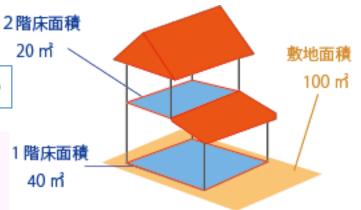
建蔽率(%)=建築面積/敷地面積×100

▶ 容積率とは、敷地面積に対する 延べ床面積(各階の床面積を合計した面積) の割合

容積率(%) = 延べ床面積/敷地面積×100

例:右図の容積率

 $(20 \,\mathrm{m}^2 + 40 \,\mathrm{m}^2) \div 100 \,\mathrm{m}^2 \times 100 = 60 \,\%$



6. 現況のまとめ

No.4駅周辺の現況(まとめ)

- 歩 歩いたり、自転車で楽しめる資源がある
- ▶ 土地利用は低層戸建住宅が中心で、 新青梅街道沿いには事務所・事業所等が立地している
- ▶ 山王森公園や生産緑地などみどりや 自然、農を感じられる環境がある
- ➤ 新青梅街道及び松中残堀線が地域の骨格道路
- - ✓ バスのない南西部は乗り合いタクシー(むらタク)が運行
- ▶ 残堀川周辺に浸水想定区域があるものの、 駅周辺は災害のリスクが低い